

## 第6章 腹膜透析

### 1. 腹膜透析の現況

施設調査票による集計では、2018年末の腹膜透析（peritoneal dialysis：PD）患者数は9,445人で、前年と比べ355人増加した（表1）。その内訳は、PD単独が7,582人、HD（F）の併用は週1回が1,621人、2回が142人、3回が30人、それ以外の併用が70人であった。2015年よりPDで新規に透析導入した患者数を施設調査で調べており、2018年は2,293人で、前年と比べ176人増加した（図33、補足表33）。

患者調査票による集計で性別と年齢に回答のあったPD患者9,069人のうち、男性は65.9%、女性は34.1%であった（図34、補足表34）。

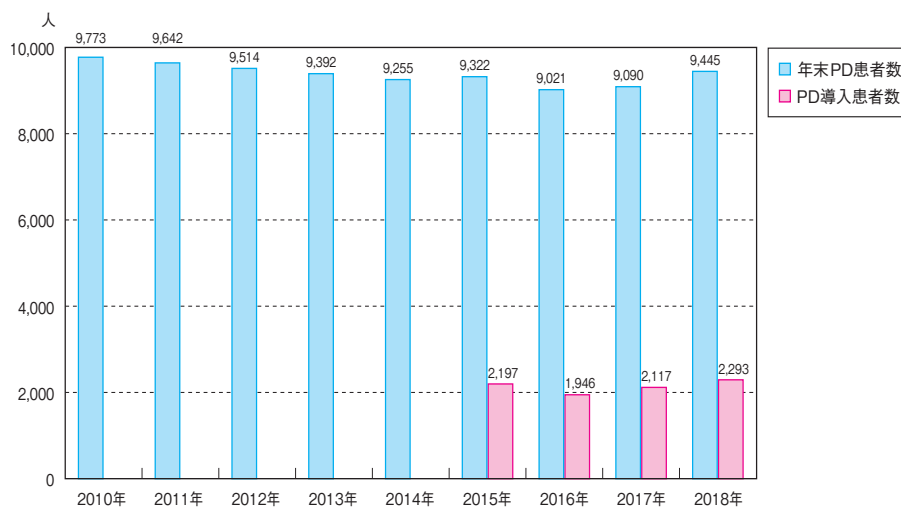


図33 PD患者数およびPD導入患者数の推移，2010-2018

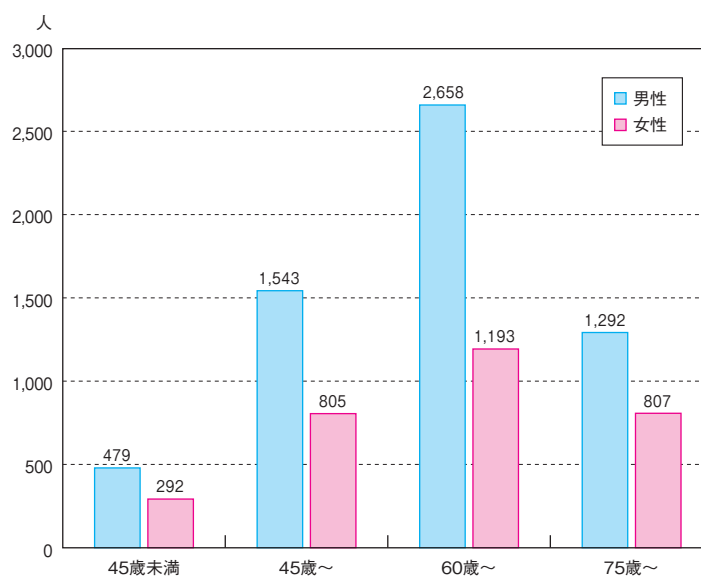


図34 PD患者 年齢と性別，2018

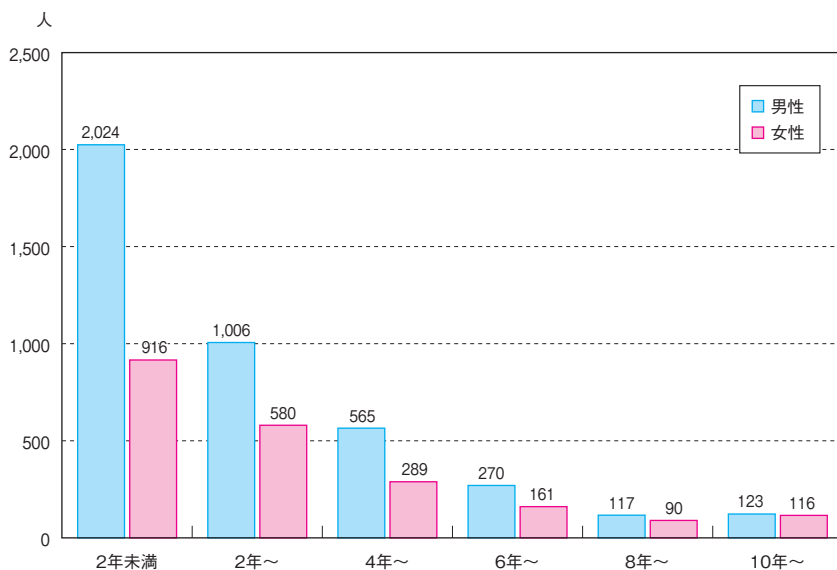


図 35 PD 患者 PD 歴と性別, 2018

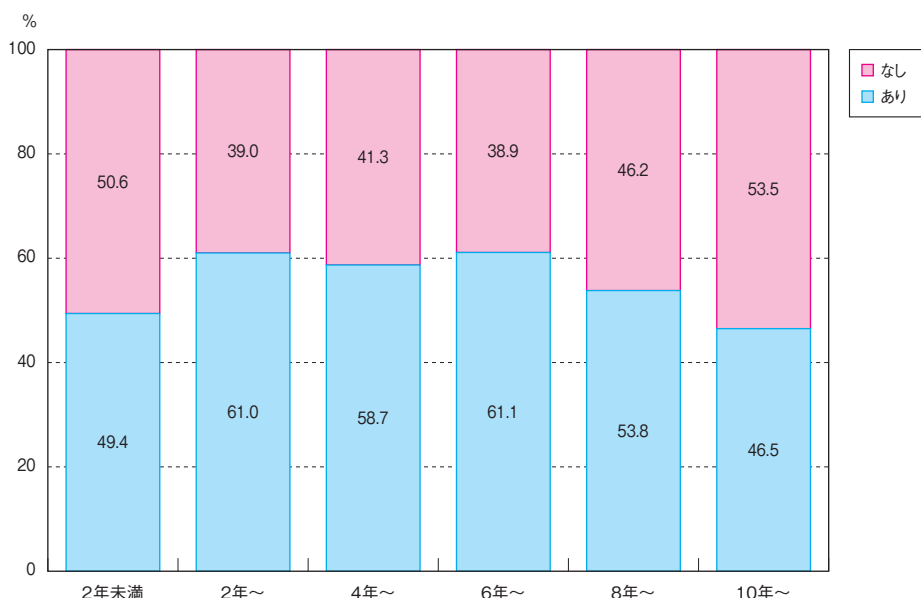


図 36 PD 患者 イコデキストリン透析液使用の有無と PD 歴, 2018

PD 歴, 性別について 6,257 人から回答が得られた。PD 患者の平均 PD 歴は全体 3.07 年, 男性 2.89 年, 女性 3.40 年であった。PD 歴 2 年未満の患者が最も多く, 全体で 47.0%, 男性 49.3%, 女性 42.6%であった。PD 歴 8 年以上の長期継続例は, 全体で 7.1%, 男性 5.8%, 女性 9.6%であった (図 35, 補足表 35)。

イコデキストリン透析液使用の有無および PD 歴については 5,938 人から回答が得られた。イコデキストリン使用患者は 3,236 人 (54.5%) であった。使用の有無と PD 歴との関連については, PD 歴 2 年以上から 8 年未満の間は使用の割合が 60%前後であったが, PD 歴 2 年未満および 10 年以上では 50%弱であった (図 36, 補足表 36)。

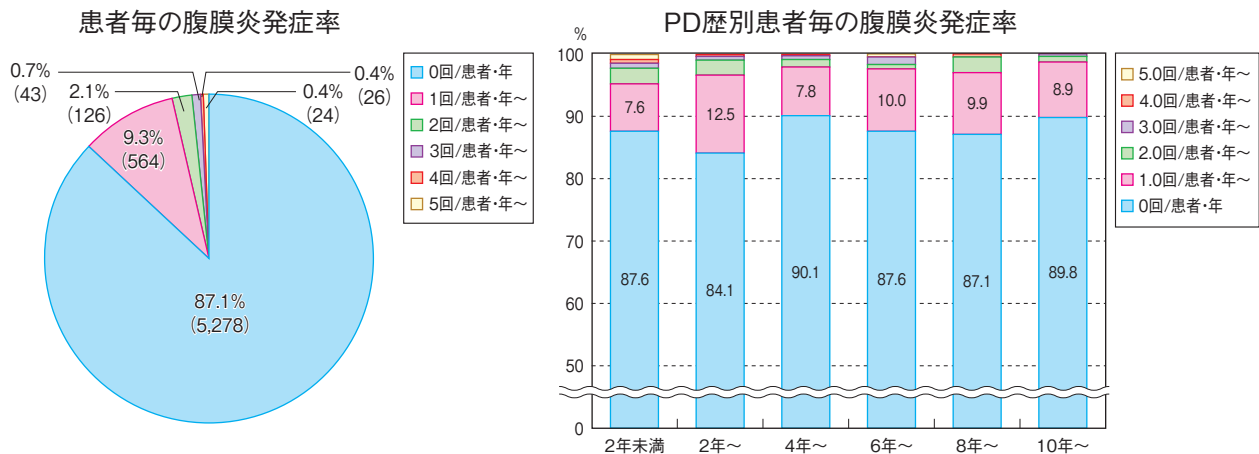


図 37 PD 患者 患者毎の腹膜炎発症率 / PD 歴別患者毎の腹膜炎発症率, 2018

腹膜炎について 2018 年中の患者毎の腹膜炎発症率は下記の計算式によって算出した。

2018 年中の患者毎の腹膜炎発症率(回/患者・年) = 2018 年中の個々の患者の腹膜炎罹患回数 ÷ (2018 年中の個々の患者の PD 実施月数 ÷ 12)

腹膜炎発症回数に回答があった 6,061 人のうち、2018 年中に一度も腹膜炎を発症しなかった患者は 5,278 人 (87.1%) であった (図 37, 補足表 37)。

腹膜炎発症回数および PD 歴の両方に回答があったものは、5,904 人であった。PD 歴 2 年未満において、2018 年中の患者毎の腹膜炎発症率が 1 回/年以上の割合は 12.4% で他とあまり変わりはないが、4 回/年以上の割合は 1.5% と最も高かった (図 37, 補足表 37)。